

令和5年7月1日
発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
発行責任者
永原智行



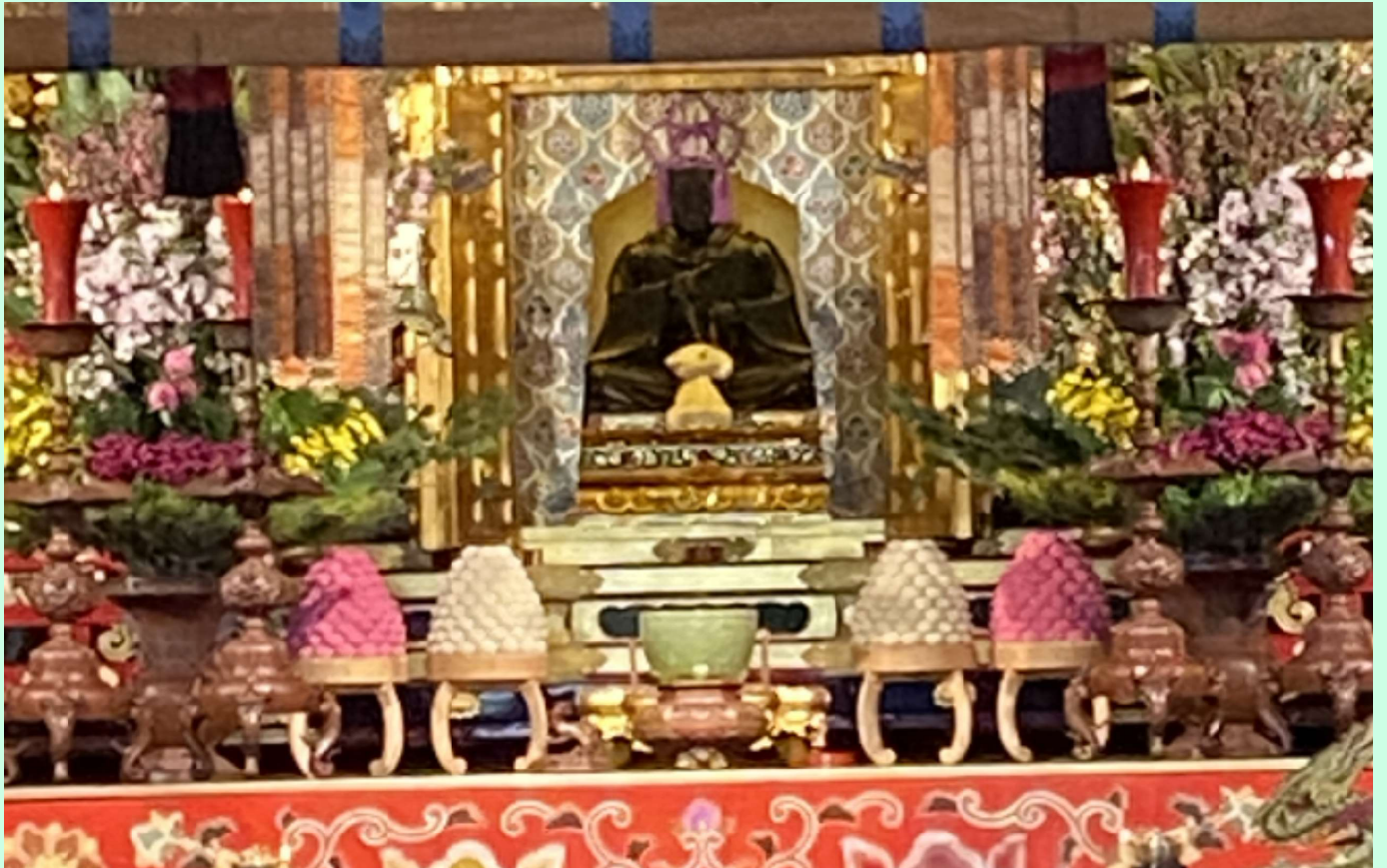
ご報謝とは恩をいただいて
それを返すという

ことではなく

ご恩を無駄にせぬと

いうことです

小山法城和上著「阿弥陀経法話」から



親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要特集号

ご縁を慶び、お念仏とともに

今のわたしたちがこのお念仏の教えに出
会うことができたのは、八五〇年前の親鸞
聖人ご誕生あつてのことであります。そし
て八〇〇年前にその教えを明らかに『顕浄
土真実教行証文類（教行信証）』を撰述し
てくださったからに他なりません。

私たちは、その八〇〇年にわたる長い伝
統と歴史の一員に名を列ねていることに慶
びを噛みしめるとともに、阿弥陀如来に願
われ、阿弥陀如来のお慈悲に包みこまれ、
お念仏としてはたらく続けてくださってい
ることへの感謝と慶びの輪を、さらに広め
ていきたいものです。



親鸞聖人生誕850年特別展『親鸞』

～生涯と名宝



京都国立博物館



今回の日高組団体参拝にあわせて、京都国立博物館で開催中の親鸞聖人生誕八五〇年特別展『親鸞－生涯と名宝』を参加者全員が鑑賞しました。

この特別展は生誕八五〇年を記念して過去最大規模となる親鸞展で国宝11点、重要文化財七〇点余りを含む約一八〇点が出展され、親鸞聖人の求道と伝道の生涯を直筆の名号・著作・手紙をはじめ、彫像・影像・絵巻など浄土真宗各派の寺院が所蔵する法宝物が鑑賞でき、親鸞聖人の生涯やお言葉にふれる「縁になりました」。

法悦クイズ

【応募方法】

ハガキ、日高組ホームページにてご応募してください。

〇ハガキで応募

① 法悦クイズの答え ※必須
② 住所 ※必須
③ 氏名(ふりがな) ※必須
④ 年齢
⑤ 電話番号
⑥ 所属寺(〇〇寺) ※必須
⑦ 「ひかり」に対するご意見 ご感想等

〒649-1113
和歌山県日高郡
由良町阿戸244番地
教専寺内 日高組事務所
行

〇ホームページから応募

日高組ホームページのメニュー内にあります応募フォームより、必要事項をご記入の上送信ください。

日高組ホームページへのアクセス方法
下記のいずれかの方法で、日高組ホームページにアクセスできます。

〇URLを直接入力してアクセス

下記のURLを直接入力してアクセスしてください。
<http://hidakaso.jimdo.com>

〇バーコード(QRコード)からアクセス

お使いのスマートフォン等にQRコード読み取り機能で右のQRコードを読み取るだけでURLが表示されます。アドレス入力しなくても手軽にアクセスできます。



【応募締め切り】

2023(令和5)年9月30日(必着) 発表は次号です

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

- Q.. 親鸞聖人の妻の名は?
- 次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。
- ① 覚信尼 かくしんに
 - ② 九条武子 くじょうたけこ
 - ③ 恵信尼 えしんに

一一九号の正解は「②日野の里」でした。

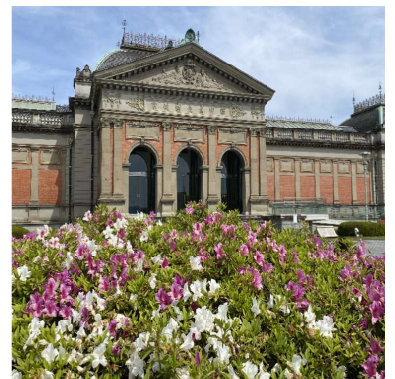
現在の京都市伏見区に位置する「日野の里」で、日野家の菩提寺・法界寺が今も現存しています。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- | | |
|------------|------------|
| 由良町 岩根登代美様 | 由良町 岨山雄一様 |
| 由良町 井口きよみ様 | 由良町 畑中靖子様 |
| 御坊市 塩田廣一様 | 由良町 中口小夜美様 |
| 由良町 中崎エミコ様 | 由良町 濱上弘様 |
| 由良町 松下光男様 | |



京都国立博物館



門徒心得

お坊さんだけ結婚された親鸞さま

親鸞聖人は結婚された僧として知られています。聖人は29歳のときに比叡山を降りて専修念仏の道に入られます。その6年後には流罪に遭われ、越後におもむかれますが、この京都時代に結婚されたとされ、子どもももうけられました。

現在の日本では結婚されているお坊さんは多くいらっしゃいますが、当時は僧侶の妻帯は禁じられていました。というのもも仏教の戒律に、「女性との性行為を絶つ」とあるため、僧侶が修行し自ら悟りを開く自力の教えでは、厳しいルールを守り通し、邪魔となる煩惱を絶つべきであるとされていたからです。

しかしながら、親鸞聖人が頭かにされたみ教えは、阿弥陀如来によって全ての人が平等に救われるというものです。結婚している人も子どもがいる人も当然입니다。結婚をして家庭を持つたら救われなくなるというのなら、「全ての人を救う」という教えに反します。だからこそ聖人は公然と自ら結婚し、普通の人たちと同じ状況に身を置くことで自ら実践しようとされたのです。前例のないことに多方面から非難を受けましたが、真実の仏教の在り方を自ら証明する決断ではなかったでしょうか。妻の恵信尼さまはその思いの理解者であり、夫が流罪になっても常に寄り添い支え続けました。

今回の日高組団体参拝にあわせて鑑賞した京都国立博物館での『親鸞展』においては、親鸞聖人の家族にスポットが当てられた展示室があり、聖人の肖像を挟んで左右に、妻の恵信尼さま、末娘の覚信尼、親子の縁を義絶された息子の善鸞の肖像が並んで展示されていました。これらの肖像画は本来別々の寺院に所蔵されていたため、同時に並ぶ機会はほぼあり得ません。

(鈴木章吾)

「親鸞聖人のご生涯」と 主著「教行信証」

今から八百五十年前の一七三年、平安時代末期の京都で親鸞聖人はご誕生されました。源氏と平氏の覇権をめぐる争いのただ中にあり戦乱の世に生きること余儀なくされていた時代でした。また度重なる自然災害や病の流行に見舞われ、そこに生きる人々の暮らしは荒んだものでした。

そんな時代に生まれた親鸞聖人は9歳の時に出家され、比叡山で修行に励まれます。厳しい修行を重ねること20年、どれだけ修行と学問に励んでも悟りの道を見いだすことができませんでした。29歳の時、自らの歩むべき道を求めて聖徳太子ゆかりの六角堂に百日間の山籠を始められます。その95日目の明け方、夢の中で聖徳太子に導かれ、法然聖人の元を訪ねる決心をされます。

法然聖人は誰に対しても平等にただ念仏をしなさいと教えておりました。親鸞聖人はこの教えこそいつの時代にあっても、どんな人にも開かれている真実の仏道であると法然聖人をご生涯の師と仰ぎ、念仏者として歩み出されました。

法然聖人のもとで親鸞聖人はおよそ6年間過ごされました。その間に法然聖人から主著、『選択本願念仏集』の書写と法然聖人の肖像画である真影の製作を許されました。また恵信尼公と出会い、結婚されたのはこの頃とも言われています。

法然聖人の念仏の教えには、親鸞聖人だけでなく、老若男女身分を問わずたくさんの人々が帰依されました。しかし興福寺、延暦寺などから強い反発を受け、ついに朝廷が弾圧に踏み切ります。その結果4人が死罪、8人が流罪という厳しい処罰が下され、法然聖人は土佐の国、現在の高知県へ、親鸞聖人は越後の国へ流罪となりました。聖人御年35歳のときでした。5年後に流罪が許されてほどなくして

法然聖人が入滅されました。親鸞聖人はしばらく越後に留まり42歳の時に関東へ向かいます。その地におよそ20年間滞在し、常陸国現在の茨城県の稲田を中心に念仏の教えを伝えていかれました。(写真)



親鸞聖人が京都に帰られた時期ははっきりと分かりませんが、62〜63歳頃の事と考えられています。親鸞聖人が京都に帰られた後、関東では念仏の受け止めをめぐって様々な困難や対立が起こりました。その中で誤った教えを広めた、長男の善鸞との親子の縁を切ると言う悲しい出来事もありましたが、親鸞聖人は改めて念仏の教えを自らに問いながら関東の同行に手紙や書物を送り、念仏の教えを伝え続けられました。そして一二六三年一月十六日、親鸞聖人は90年の生涯を終えられました。

親鸞聖人が著された『教行信証』は正式には、『顕浄土真実教行証文類』といい、浄土真宗における根本聖典です。『教行信証』は、親鸞聖人が浄土真宗のみ教えを教・行・信・証・真仏土・化身土の六巻で明らかにされたものです。

『教行信証』は、釈尊が阿弥陀仏の本願を説かれた『大無量寿経』を始めとする、インド、中国、日本で念仏の教えを明らかにされた七高僧を中心とする著作からの引用とご自釈と呼ばれる親鸞聖人自身の文章で構成された漢文の著作です。

まず教巻では、真実の教えは大無量寿経に説かれる阿弥陀如来のご本願であることが明らかにされ、行巻では、真実の行として南無阿弥陀仏という名を称えることを、信巻では如来より授かる信心、すなわち他力の信心であるとされ、証巻では、「即の時に大乘正定聚の数に入るなり」と念仏申す身となること。真仏土巻では、このように真実の仏道を私たちに成り立たせる如来の真実の慈悲と智慧の働き、またそれによって開かれた化土という世界を確かめられ、化身土巻では、迷いを生きる私たちを如来の悟りに導く、様々な方便について述べられています。

要約すると

教巻…『大無量寿経』の教えを説く。
行巻…法蔵菩薩の修行を説く。
信巻…阿弥陀如来の救済の本願を信じる心を説く。
証巻…阿弥陀如来の救済に至る証明を説く。
真仏土巻…阿弥陀如来の国土を説く。
化身土巻…この世を説く。
と言えましょう。

親鸞聖人がこの『教行信証』をほぼ完成された年が立教開宗の年と定められ、明年で立教開宗から八百年をお迎えいたします。(楠原)

参加者からご感想をいただきました 4/1 1班

○覚性寺 村上良子さん

この度ご縁がありまして覚性寺から女性総代2名で参加しました。

午前中は京都国立博物館へ行き、親鸞聖人の国宝級の大切な絵画掛軸が展示されておりました。館内は薄暗く3階から1階まで順路通りに拝見しましたが、正直よくわかりませんでした。昼食後、いよいよ本願寺への参拝です。到着すると和歌山教区の方が誘導してくれて混雑することもなく御影堂に入ることが出来ました。厳かな法要が営まれているのですが、座席からは用意された画面越しにしかみることが出来ませんでした。全国からの参拝ですから仕方のないことですがきちんと教区別に組ごとに座ることになっておりました。法要はざわつくことなく広く大きな御堂内でひとつになってお経を申すことが出来たことも大変良かったと思っております。

宗教団体でいろいろと問題となっている昨今ですが、浄土真宗のまとまりはこの法要でありありと見せつけられたように感じました。今回はありがとうございました。



○念興寺 中田邦城さん

春の桜が満開の4月1日親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に参加すべく日高組の各寺の住職・総代がバスで出発し、まず京都国立博物館で展示されている親鸞聖人ゆかりの古文書・絵巻物・仏画・仏像を見て学びました。昼食のあと西本願寺御影堂で行われる慶讃法要（午後の座）に参拝しました。法要には全国各県の信者が参拝し正信念佛偈、雅楽演奏があり大谷門主のあいさつを頂きました。帰りは予定通りの時刻に到着し、大変有意義な一日となりました。

○妙願寺 三上良彦さん

「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」に参加させていただきました。壮大な雅楽と、日本各地から集まったご門徒の皆様と正信念佛偈を唱えさせて頂きよい経験になりました。

○連専寺 岐山雄一さん

800年の時空を超え、親鸞聖人の御生誕から浄土真宗のみ教えを慶び、お讃えするご縁を大変嬉しく思いました。法要に先立ち、京都国立博物館で親鸞聖人誕生850年特別展を見学しました。親鸞聖人については、住職や布教使から色々とお話を聞いておりましたが、改めて親鸞聖人と浄土真宗について学ぶ大変良い機会となりました。館内では、自筆の名号・著作・手紙や彫像・影像・絵巻などから、つぶさに親鸞聖人のお人柄や御労苦、浄土真宗の歴史と尊さを感じることができました。浄土真宗の全てについて、中々見ることのできない貴重な展覧会であり、新たな発見もありました。むしろ時間が足りなく十分回れなかったのが残念なくらいでした。その後、西本願寺御影堂の慶讃法要では、領解文など分かりやすい解説もあり、荘厳な雰囲気の中でお勤め出来ました。新制御本典作法の大衆唱和の大迫力に感動するとともに、特に正信念佛偈は、日常のお勤めを行う上での貴重な手本であると感じました。また、雅楽の音色の美しさといにしへの歴史を感じさせる趣に心酔しました。時間もあっという間に過ぎていきました。こうして、感動の余韻とともに1日を過ごすことが出来ましたが、春陽うららかな中、終日天候にも恵まれ、親鸞聖人が私達を暖かく迎え入れて下さったのだな、と改めてありがたい気持ちになりました。このような50年に一度のご勝縁、節目の法要に、今後中々経験出来ないと思いますが、大変素晴らしいご縁に感謝し、今後も親鸞聖人のみ教えと、阿弥陀如来の智慧と慈悲を心に刻み、精進して参りたいと思います。



○教専寺 新田豊次さん

「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」に私がお縁に預かり一生に一度のお参りに参加致しました。生命を救う阿弥陀仏の願うその教えは脈々と今も念仏布教から生まれる偉大を感じました。私たちは日々生活する中で明日も知れぬ命を大切にいかされている幸せに感謝し努力していきたいと思っています。

○専福寺 濱出将俊さん

記念すべきご勝縁にあずかりお参り出来ましたことを、心から有難く思うところで御座います。コロナウイルス感染防止の観点から、人数制限もありましたが、総代会37名がバスで西本願寺に到着すると、日高組担当のスタッフの皆様が心よりおもてなしをしていただき感激をしました。御影堂での参拝でしたが、椅子が設置され日高組の場所も決められていまして、非常にありがたいおもてなしでした。ビデオの映像も映し出され、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年についての消息で門主様の映像が映し出されたときは感動しました。参加して良かったとつくづく思いました。50年に一度の法要ですので感無量です。このたびの慶讃法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うためのご法要ですと、新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）についての消息で示されています。改めて浄土真宗で良かったと思うところです。

京都国立博物館で、親鸞聖人御誕生850年特別展「親鸞一生涯と名宝」が開催されていまして、拝見することが出来ました。真宗教団連合の特別協力を得て国宝11件、重文75件を含む真宗十派の法宝を一堂に会する総合的な親鸞展であり、凄い一言です。もう二度と見る事が出来ないと思います。私は、国宝親鸞自筆による貴重な根本聖典、教行信証（坂東本）は、800年余り後の私達に、伝えようと詳細に読み仮名や返り点がふられた自筆の著述は、親鸞聖人の阿弥陀仏の救いを人々に伝えようという熱意の現れでないかと思えます。胸が熱くなりました。この教行信証は、関東大震災で当時保管していた浅草別院が全焼したが、奇跡的に金庫から発見されたそうです。800年も守り続けることは大変なことだと改めて思うことです。私もこの法要を通じて、専福寺の責任役員として、立派に護寺発展に尽くしていかなばならないと決意を新たにしました。

参加者から感想をいただきました 4/11 2班



○光専寺 北山美和さん

好天に恵まれた早朝、少し眠いながらもバスに乗り込みました。京都へ近づくにつれ徐々に心はワクワクしてきます。久しぶりに本山での慶讃法要に参拝させていただきました。いつもは厳かで静かな御影堂は、多くの参拝者で埋め尽くされていました。私の席は後ろの方、太い柱で内陣の様子は見えませんでした。モニター越しでしたが、華やかで厳粛な雰囲気を感じました。千人超えのお勤めはとにかく圧巻でした。そして、今、私がここでお念仏を称えているありがたいご縁に気づかされました。午後からは京都国立博物館で「親鸞展」を鑑賞しました。普段は見ることができない自筆の手紙や軸・像など貴重な法宝物に出会うことができました。聖人への興味がさらに膨らむ一日となりました。近いうち、親鸞聖人の配流の地、越後を巡る旅に出かけてみたいと強く思うようになりました。

○西教寺 坂田あけ美さん

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に参加させていただきました。

西本願寺への法要参加は、はじめてのことで色々なことを知ることができ勉強させていただきました。また京都国立博物館で行われている「親鸞展」を見学、親鸞聖人の生涯と名宝に触れることができました。今回このようなご縁をいただきありがとうございました。

○蓮専寺 細川周子さん

コロナで外出がままならない日々が3年。やっと緩んだ4月11日、坊守様・仏婦会長と3名で参加致しました。久しぶりの京都。思えば6年前『専如御門主、伝灯奉告法要』の参拝に参加しました。私は参拝前に骨折をし、当日は車椅子での参加、夫に押しもらった事を思い出しました。この度はお天気にも恵まれ気持ちよく参拝できました。綺麗に荘厳されたお内陣、参拝者で埋め尽くされた外陣、きれいな音色の雅楽、皆でお勤めをした正信偈、また熊本よりの参拝の方たちとの出会いもあり、喜びに溢れた法要でした。

世界に目を向けると悲しく悲惨な戦争の報道が流れます。喜びが溢れる世界を願ってやみません。私は次の法要に参加できるかわかりませんが、子どもや孫達がお参りしてくれることを願っています。

○善宗寺 阪本スガ代さん

御影堂での千人以上による「正信偈」は重々しく感動的で、貴重な体験でした。お経声明は慈愛にみちた、人々を幸せに導いてくれるような心にしみるお声でした。法要後の博物館拝観の間もその余韻が続いているようでした。

団体行動に少し不安を感じながらの参加でしたが全てに準備が行き届いており、お世話下さった寺院の役員様方のご配慮により無事参拝を終えることが出来ました。ありがとうございます。今住むこの里の昔を想像するとき、不便な土地で生活された先人の方々のご苦労や努力により、今を生きる私たちがその恩恵を受けていることに気づかれます。大きなご縁にあわせていただく幸運に恵まれましたが、50年以上にわたりこの地にご縁をつないで下さった、仏教婦人会の方々にも感謝申し上げます。ありがとうございます。

○専福寺 大江富美代さん

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に参加させて頂き、貴重な体験をさせていただきました事誠にありがとうございました。厳かな雰囲気の中読経と共に行われた雅楽演奏の音色に心があられました。これからもこれを糧にして日々精進してまいります。



○長覚寺 山本みどりさん

法要の時、雅楽演奏がありました。心がゆったりしました。

京都国立博物館では親鸞聖人の生涯と名宝を鑑賞し、ふすま絵等が凄かったです。当日はお天気もよくバスに乗って楽しく一日を過ごしました。

○覚性寺 坂口なつきさん

4月11日に、仏教婦人会からお誘いいただき、ありがたくお参りさせていただきました。初めての西本願寺、大きさ広さに驚き、お参りに来られている大勢の人に驚き、そして雅楽の演奏があることにも驚き、ずっと驚くことばかりでした。その後のお昼ご飯は、豆乳の湯豆腐と抹茶ご飯。やさしいお味で美味しくいただき心も体もポカポカになりました。京都国立博物館の特別展は、たくさん展示されていましたが、文字がぎっしりと書き込まれている書物に圧倒されたり、桜の花の絵を間近でみる事ができました。今回の参加で貴重な体験をたくさんすることが出来たことに、心から感謝申し上げます。

読者の声

※いつも楽しく拝読しております。御正忌報恩講には、なかなか参加できない中、今回のひかりで「最も大きな行事」と触れられていました。改めて、来年は是非参加したいとおもいました。

※いつもありがたく拝読させて頂いています。難しい事も多いですが、それでも回を重ねることに少しずつ吸収させて頂いています。今後もしっかりお願いいたします。合掌

※いつもひかりを拝読しているんですが、学ばせてもらっています。これからも『ひかり』をよろしく願います。



慶讃法要の御満座で
御消息が發布されました

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗
八百年慶讃法要御満座の消息

本年3月29日より5期30日間にわたって
お勤めしてまいりました、親鸞聖人御誕生
850年・立教開宗800年慶讃法要は、
本日をもつてご満座をお迎えいたしました。
このたびの50年に一度のご勝縁に国内外よ
り多くの方々にご参拝いただき、厳肅かつ
盛大にご法要をお勤めすることができまし
たのは、仏祖の指導はもとより、僧侶・
寺族・門信徒など有縁の方々のご懇念のた
まものと心より感謝申し上げます。

私たちが浄土真宗のみ教えを確かな依り
どころとして生きることができるのは、親
鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類』（教行信
証）を著され、『仏説無量寿経』に説き示さ
れる阿弥陀如来の本願名号の真実の教えを
明らかにされるとともに、聖人のみ跡を慕
う多くの先人が、み教えに生かされる喜
びを今日まで大切に伝えてこられたからに
他なりません。

私たちは阿弥陀如来の智慧の光明に包ま
れ、照らし出されることよって、今まで
気づかなかった罪業深重・煩惱具足という
自身の姿とともに、如来の広大な恩徳を知
らされます。そして、このような私たちが、
如来に慈しまれていると同時に私の悲しみ
を如来の悲しみとして受け入れていただけ
ることを信知することで、自身の悪業煩惱



を心から慚愧し、少しでも執われの心を離
れなければならぬと気づかされます。

それは自分だけの安穩を願うような自己
中心的な生き方から、人々の苦悩をともし
ていく生き方への転換であり、そこから
大智大悲という如来のお徳を真実と仰ぎ、
それに沿うよう努める念仏者の生き方が開
かれてきます。そして、その努め励んでい
くままが如来のお徳に促され、ご本願に生
かされて生きる姿になるのです。

このたびの慶讃法要を機縁として、あら
ためて「世のなか安穩な
れ、仏法ひろまれ」と願
われた親鸞聖人のお言葉
を深く心に刻み、これか
らもお念仏を喜び、阿弥
陀如来の智慧と慈悲をあ
らゆる人々に伝えること
で、自他ともに心豊かに
生きることのできる社会
の実現に向け、さらなる
歩みが続けてまいりましょ
う。

令和5年5月21日

龍谷門主

釋 專如



日高組通信

【行事報告】

★ 日高組実践運動推進委員会
3月4日、志賀妙願寺にて開催され、4年度の総括並
びに5年度事業計画が策定されました。

★ 日高組定期組会・物故者追悼法要
3月25日、衣奈西教寺にて定期組会が開催され、4年
度事業報告並びに決算報告、5年度事業計画案、予算案
が審議され、原案どおり承認可決しました。

★ 日高組慶讃法要団体参拝
4月1日に第1班37名、4月11日に第2班31名、4月
28日に第3班18名の総計86名が参加しました。

★ 門徒総代会総会
4月8日、志賀即生寺にて開催されました。

★ 仏教婦人会総会・物故会員追悼法要
4月29日、比井長覚寺にて開催されました。

★ 慶讃法要団体参拝実行委員会
第4回を3月4日、第5回を5月27日に開催しました。

★ 仏教壮年会総会
5月28日、小引円明寺にて開催し、役員改選などが行
われました。

★ 広報部（編集委員会）
6月5日、柏善宗寺にて120号ひかりの編集委員会
が開催されました。

★ 日高組第1回組内会
6月17日、小浦円行寺にて開催されました。

【行事計画】

★ 門徒総代会前期研修会
7月16日、志賀即生寺にて開催予定。
講師は御坊組常照寺住職の柳岡直樹師。

★ 仏教壮年会前期研修会
8月27日、里蓮専寺にて開催予定。

★ 日高組キッズサンガ
10月28日に開催予定。会所は未定です。